

第34回 日本眼科記者懇談会 講演Ⅰ

働く世代の目に何が起きているか

—眼底検査から始まる、働く目を守る連携

公益社団法人 日本眼科医会/村上華林堂病院

野下 純世

1 / 21

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

本日の内容

1. 働く世代の目に、今何が起きているのか
2. 眼底検査で病気が見つかったも、なぜ受診につながらないのか
3. 何が対策の鍵になるのか



2 / 21

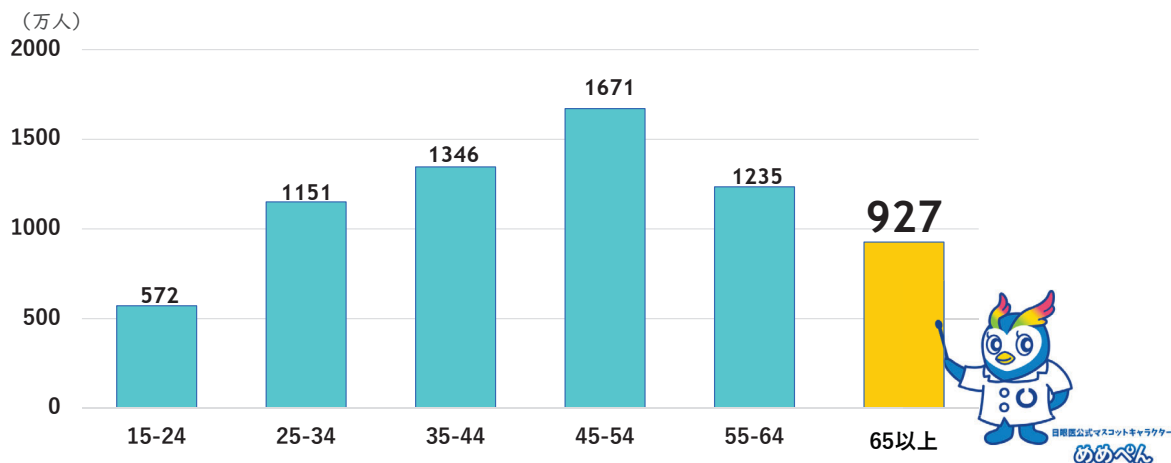
第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

働く世代の目に、今何が起きているのか

65歳以上の労働者は927万人

総務省統計局 労働力調査基本集計全都道府県全国年次
労働力調査基本集計 2024年結果より抜粋

年代別労働者数



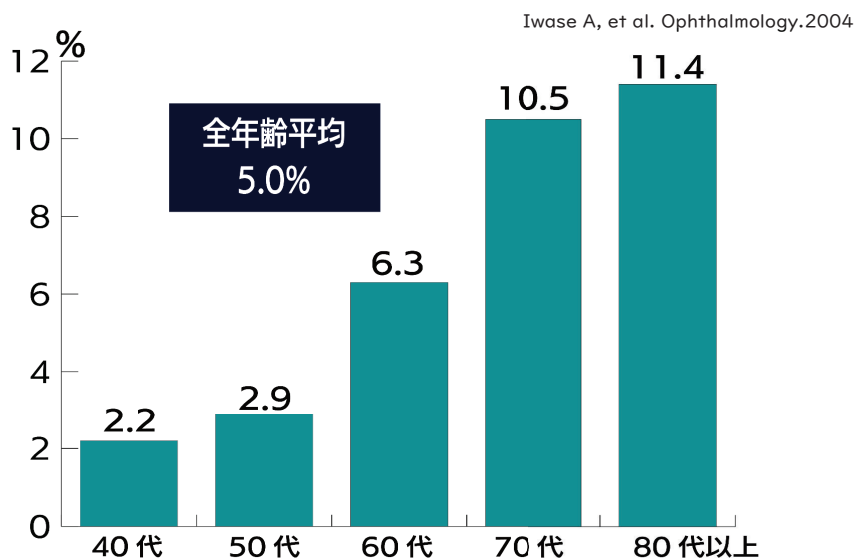
3 / 21

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

働く世代の目に、今何が起きているのか

年齢とともに緑内障は増える

全緑内障年代別有病率



4 / 21

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

働く世代の目に、今何が起きているのか

働く高齢者の中に、 58～106万人の緑内障患者がいる可能性

927万人

65歳以上の労働者数

×

6.3-11.4%

60歳以上の緑内障有病率
(多治見スタディ)

=

約58万人
～106万人

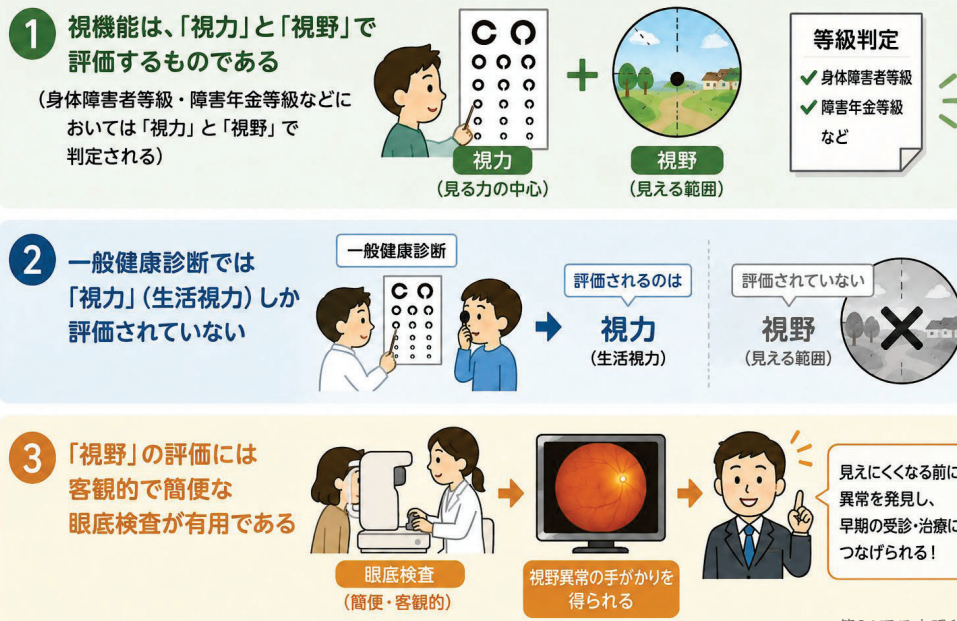
が緑内障を有している可能性

5 / 21

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

働く世代の目に、今何が起きているのか

見落とされがちな「視野」の重要性

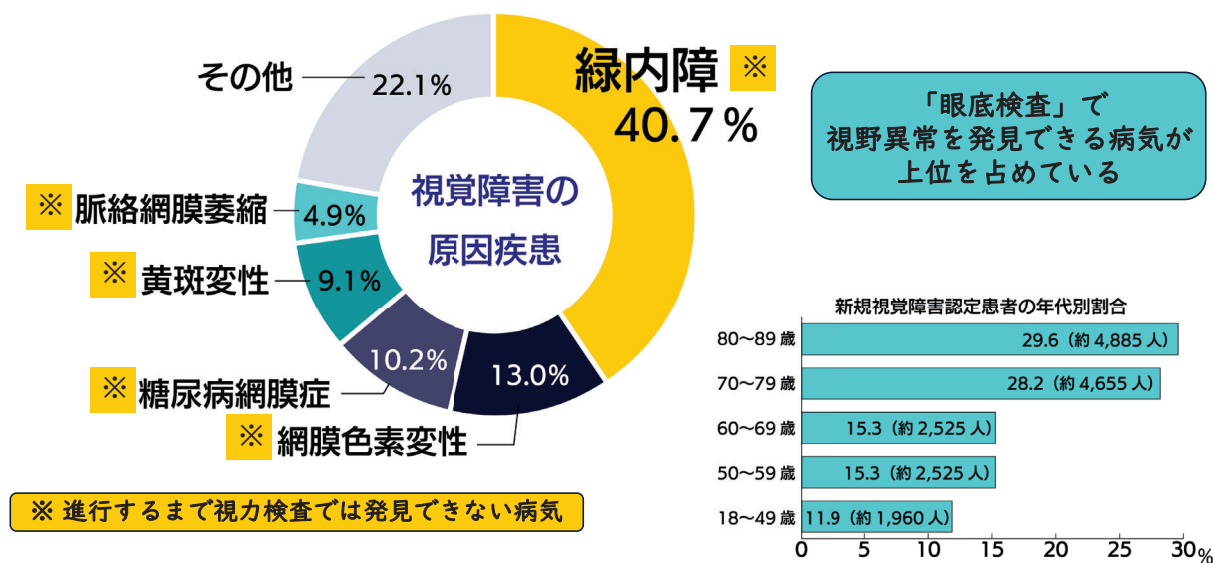


6 / 21

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

働く世代の目に、今何が起きているのか

視力低下よりも『視野の異常』が重大な病気のサイン



2019年度に新規に視覚障害認定を受けた18歳以上の視覚障害者 総数 16504人

Matoba R, et al. Jpn J Ophthalmol. 2023

7 / 21

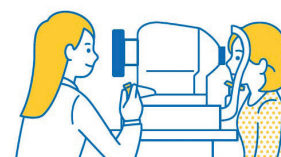
第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

働く世代の目に、今何が起きているのか

眼底検査とは

眼底とは：目の奥にある、視覚にとって最も重要な部分

眼底検査：1枚の写真で、網膜・血管・視神経の状態をまとめて確認できる検査



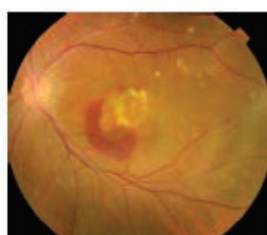
【眼底検査でしか見つからない病気】



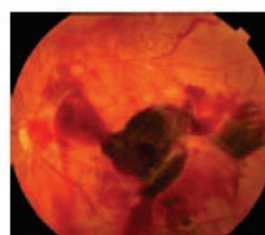
正常



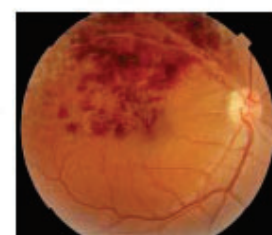
緑内障



黄斑変性



糖尿病網膜症



網膜静脈の閉塞

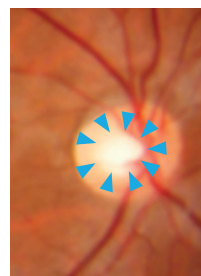
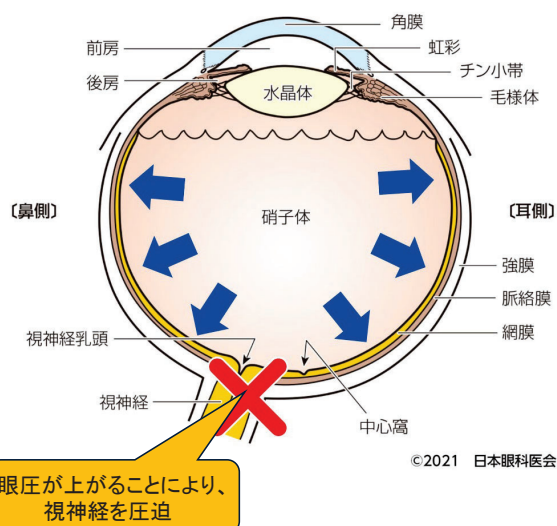
8 / 21

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

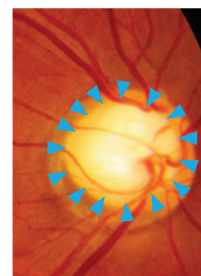
働く世代の目に、今何が起きているのか

緑内障とは

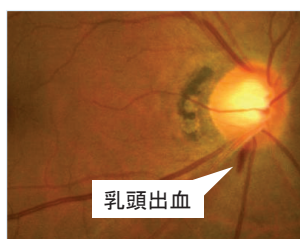
- ・ 視神経が障害され、視野が少しずつ狭くなる病気
- ・ 初期には自覚症状が乏しく、気づかないまま進行することがある
- ・ 眼底では、視神経乳頭の陥凹拡大などの特徴的な変化がみられる



正常な視神経乳頭



緑内障性の視神経乳頭の陥凹拡大



乳頭出血

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

9 / 21

働く世代の目に、今何が起きているのか

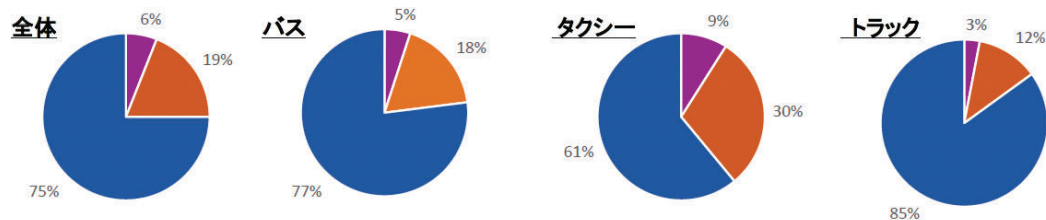
眼科検診では、4人に1人は異常・疑いが見つかる

令和5年度 眼科検診結果

国土交通省ホームページ 自動車運送事業に係る視野障害対策ワーキンググループ 第2回会議 資料1-2 を元に作成

【検診結果】

- (1) 全検診者のうち「**異常所見あり(早急に精密検査・治療が必要)**」と診断された運転者は、**計59名(6%)** (バス:12名、タクシー:31名、トラック:16名)
- (2) 全検診者のうち「**異常所見の疑いあり(3か月以内に精密検査が必要・経過観察が必要)**」と診断された運転者は**計207名(19%)** (バス:44名、タクシー:103名、トラック:60名)
- (3) 全検診者のうち「**異常なし**」と診断された運転者は、**計806名(75%)** (バス:191名、タクシー:205名、トラック:410名)



第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

10 / 21

眼底検査で病気が見つかったも、なぜ受診につながらないのか

要精密検査でも、眼科受診につながらない



国土交通省ホームページ 自動車運送事業に係る視野対策ワーキンググループ第2回会議 資料1-2より

11 / 21

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

眼底検査で病気が見つかったも、なぜ受診につながらないのか

緑内障を自分で把握している人は1割未満

緑内障は進行するまで自覚症状がほとんどないため、
「まだ大丈夫」と様子を見てしまいやすい構造がある。

https://www.nichigan.or.jp/Portals/0/JJOS_PDF/112_1039.pdf

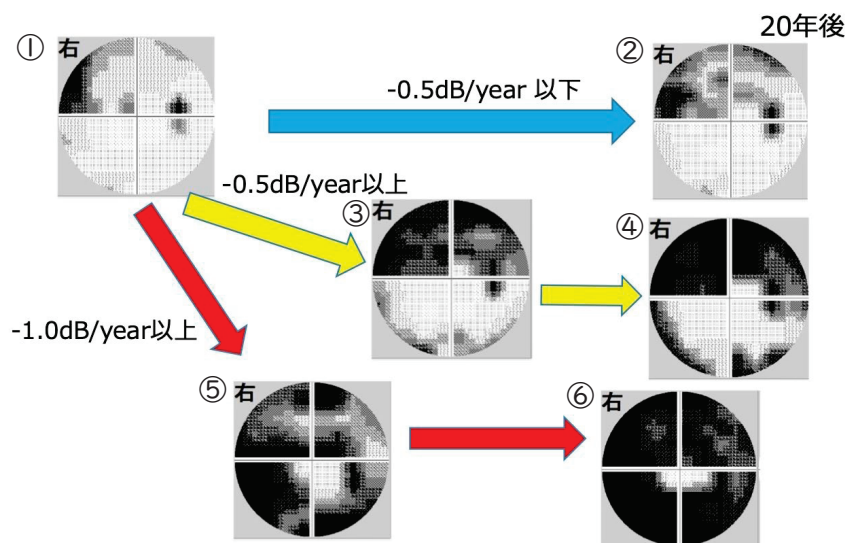


12 / 21

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

眼底検査で病気が見つかったも、なぜ受診につながらないのか

緑内障性視野障害の進行



治療を受けていないと、自分では気づかぬうちに、長い時間をかけて進行することがあります



日糖医公式マスコットキャラクター

めめぺん

※dB（デジベル）とは：視野検査で視標の明るさに対する感度を数値化したもので、0dBが正常、マイナス値が大きくなるほど感度が低下し視野が欠けていることを示す

13 / 21

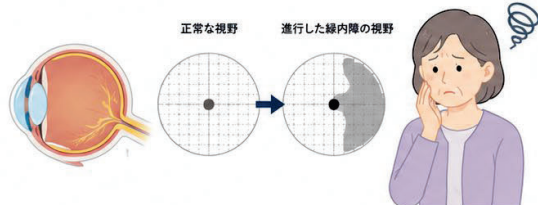
第16回 日本眼科記者懇談会資料より

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

眼底検査で病気が見つかったも、なぜ受診につながらないのか

気づいた時には、手遅れに

視機能の回復不能な低下



進行した緑内障などは、治療をしても視野・視機能は元に戻らない

+

視機能の低下が、働き続けることにも影響しうる可能性



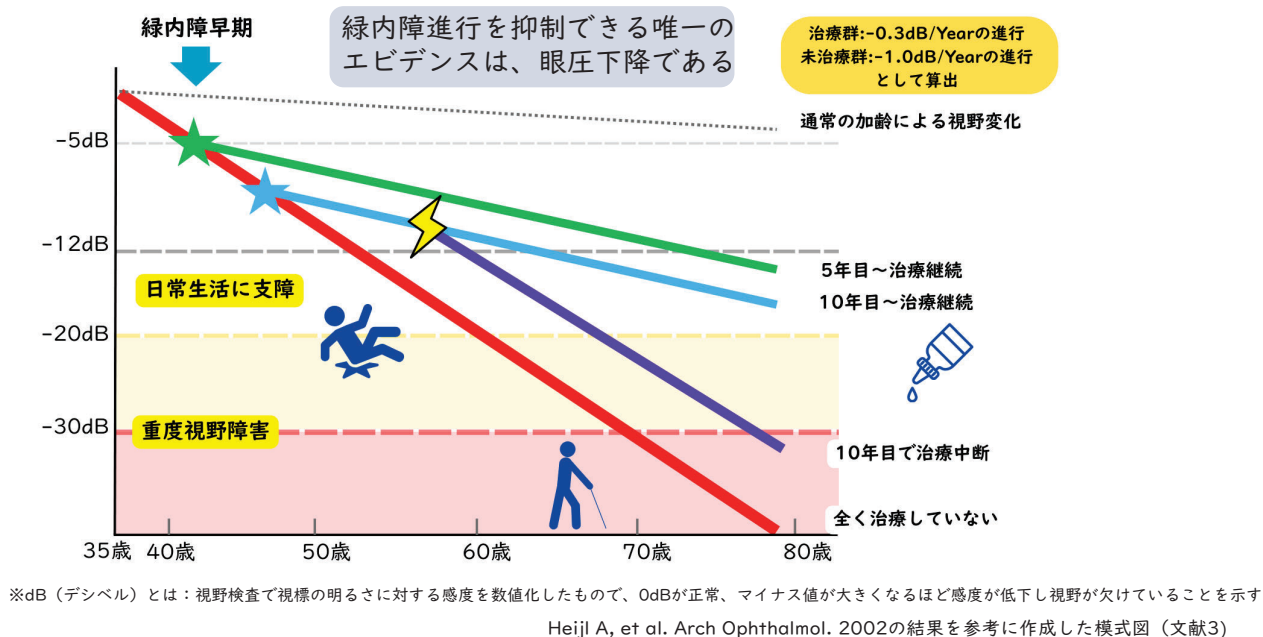
発見の遅れは、視機能だけでなく働き続けること自体に影響しうる

14 / 21

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

眼底検査で病気が見つかったも、なぜ受診につながらないのか

治療を続ければ、視野障害の進行を抑えられる



15 / 21

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

何が対策の鍵になるのか

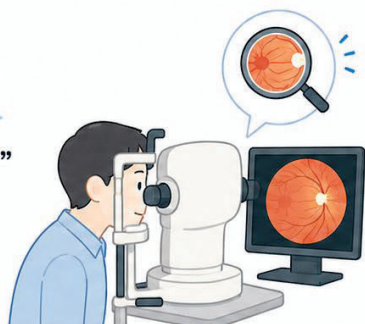
健診を「受けっぱなし」にしないことが重要

眼底検査は病気を“見つける”入口にすぎない。

治療を続ければ守れる目だからこそ、健診を受けっぱなしにしないことが重要

眼底検査

病気を“見つける”
入口



専門医への受診

見つけた後、
つながらなければ
意味がない

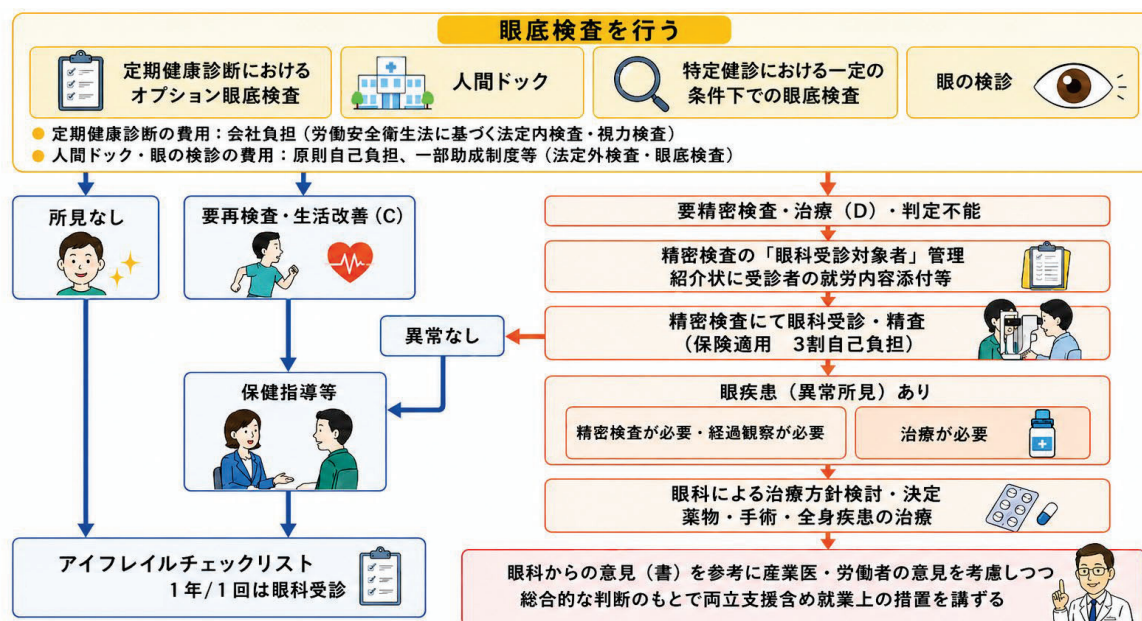


16 / 21

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

何が対策の鍵になるのか

眼科精密検査の流れ



17 / 21

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

何が対策の鍵になるのか

対策の鍵 ① 健診の「受けっぱなし」をどう防ぐか

STEP 1

健診で見つける

定期健診のオプション・ドック
で眼底検査を実施

▲ 潜むリスク

初期は自覚症状がなく、「まだ
見えているから大丈夫」と放置
されがち

STEP 2 ★最大の要

会社が受診を把握

受診を本人任せにせず、要精査の人
を台帳管理

◎ 未受診率60～80%を打破

「行ったかどうかの確認」と声かけて
、受診率を確実に引き上げる

STEP 3 新提案

仕事内容を添えて眼科へ

紹介状に「運転業務・PC作業・現場」
」等をメモ

👨‍⚕️ 眼科医の的確な診断へ

業務内容がわかることで、注意すべき
点の判断可能

記者の着眼点

未受診放置を防ぐカギは、「本人任せにしない受診管理」 × 「仕事内容を伝える紹介状」

18 / 21

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

何が対策の鍵になるのか

対策の鍵 ② 病気になっても「働き続ける」ために

眼科医からのバトン

「就業意見書」の作成

📌 病状＋具体的な配慮事項を明記

「病気だから休職」ではなく、「どうすれば働けるか」を職場へ伝達

💬 具体的なアドバイスの例

「昼間の運転は問題なし。夕方・夜間は控える」
「手元作業の照明を少し明るく調整する」

医療側が「職場ですぐ使える助言」を渡す

会社・産業医の対応

「就業上の配慮」を実施

🔄 無理のない業務の微調整

走行時間帯やルートの配慮、デスクのモニター文字拡大など

🕒 通院・点眼のサポート

定期通院の休暇取得や、就業中の点眼時間を確保し治療継続を支援

職場が「少しの工夫」で辞めずに済む環境をつくる

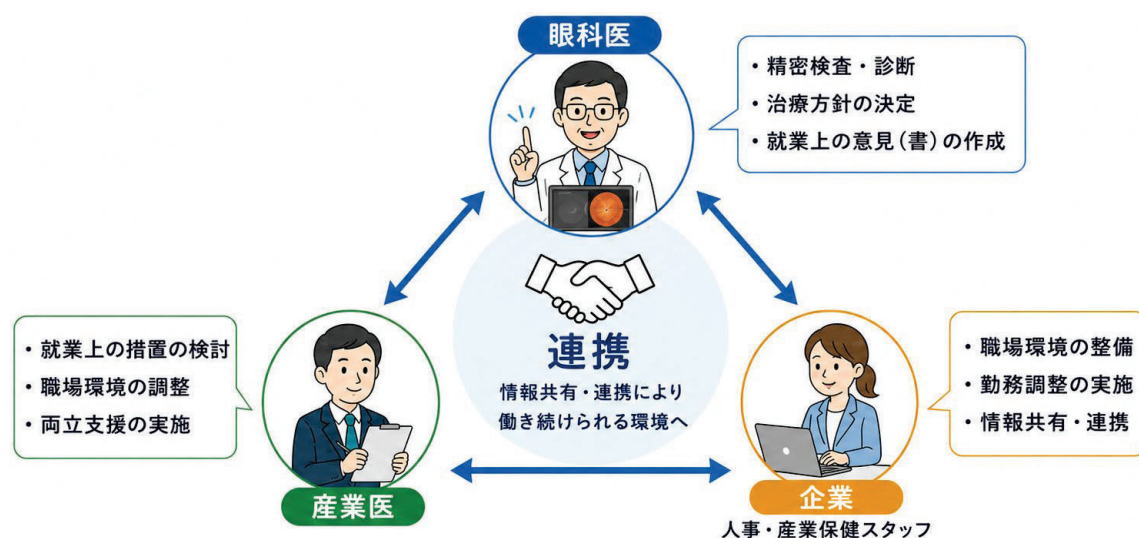
目の病気の早期発見は、「失明防止」にとどまらず、働く人の「離職防止」につながる

19 / 21

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

何が対策の鍵になるのか

健診結果を、その人が働き続けられる環境につなぐ



3者が連携することで、早期発見・早期対応と、安心して働き続けられる職場づくりにつながります。

20 / 21

出典：はたらく人の目を守る眼科検診ハンドブック 図「眼科 精密検査の流れ」を元に作成

第34回日本眼科記者懇談会 2026年9月17日

何が対策の鍵になるのか

働く目を守るために

